君が変わる季節

R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止

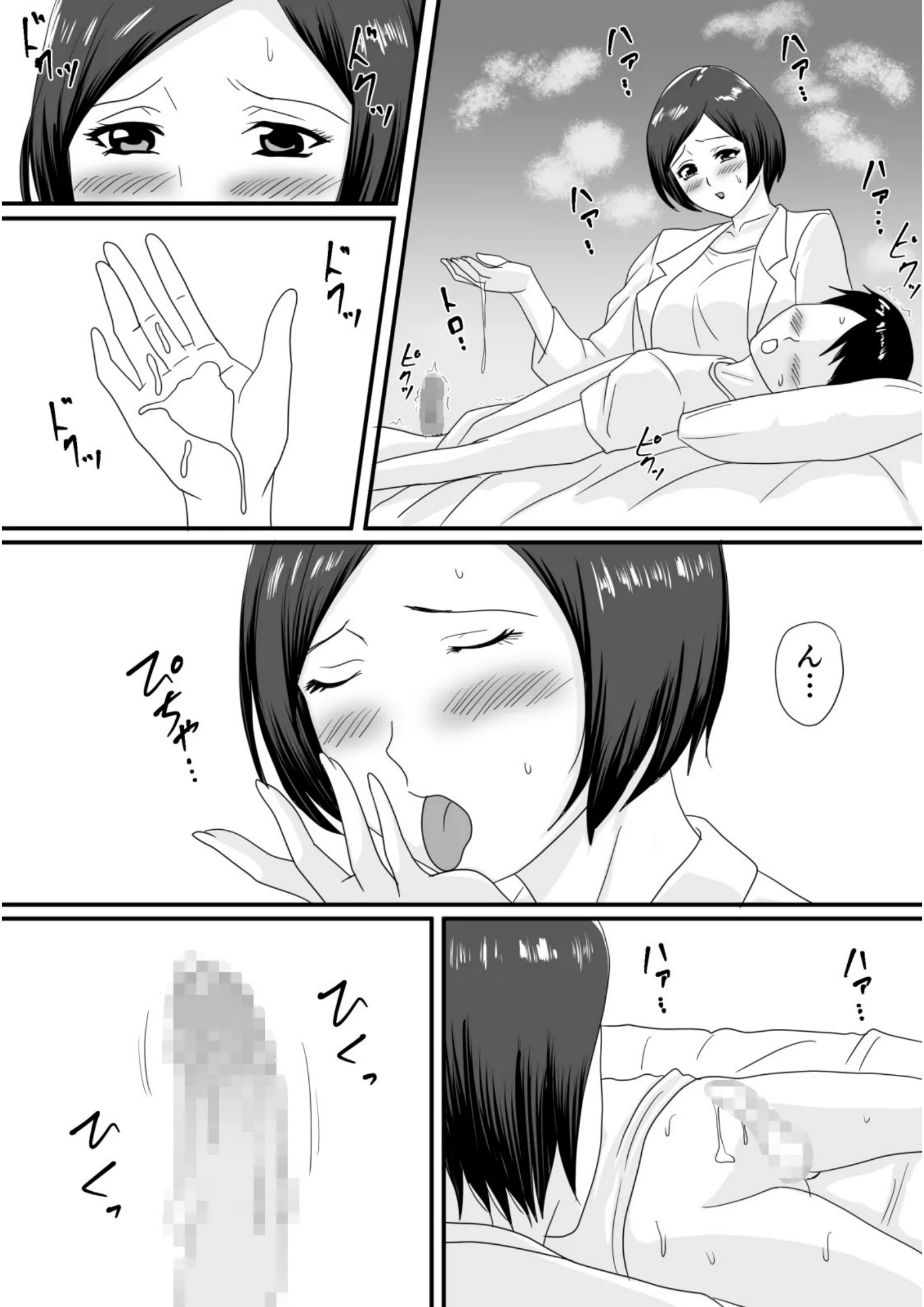
夏が来るたびに思い出す…
霧島診療所
ミーン
ミーン
ミーン
ひっく
ぐすっ
ナオくん？
どうしたの？
パタッ
パタッ
亜子姉ちゃん！
ボク病気に
なっちゃった！
ええッ!?
ギュッ
朝起きたら
おちんちんから
ネバネバしたのが
出てて…
それって…
あ！

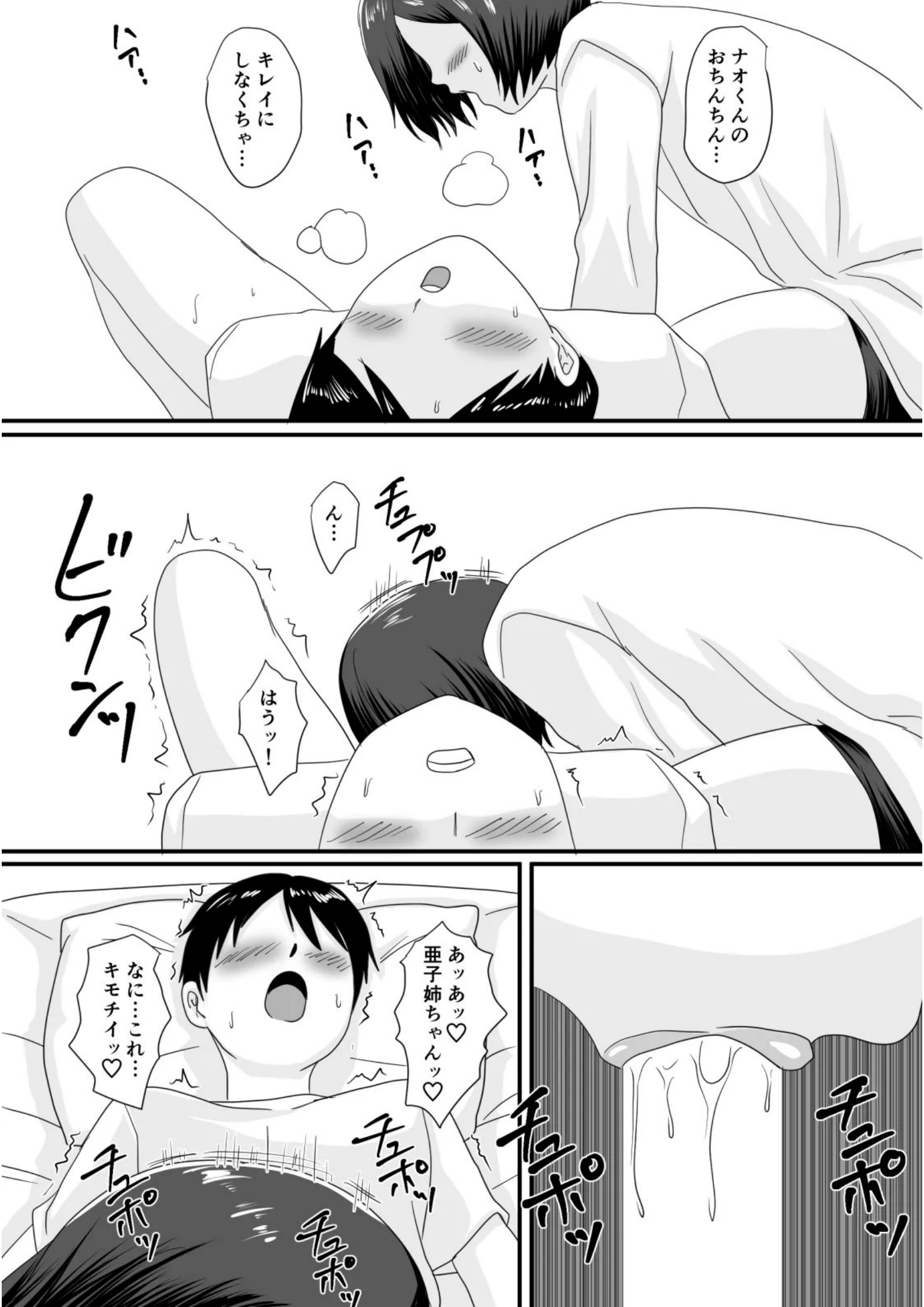
おめでとう！
ナオくん！
？
はい
どうぞ
じゃあボク
病気じゃないの？
うん！　心配しなくても大丈夫！
男の子はナオ君くらいの年齢になると
精液っていう赤ちゃんの元が
おちんちんから出るようになるの
これからおちんちんが
ムズムズしてくることがあるから
その時はマスターベーションをして
精液をおちんちんから出してあげてね！
チュー
ますたーべーしょん？
ガバッ
それってどうやるの？
やってみせて！
え？

ほら早く！
やってみせるって…
あの…えっと…
シュッ
こ…こうやってね？
シュッ
あッ♡
！
ビクンッ
ピクッ
ピクッ
あ…亜子姉ちゃん
それ気持ちいい…
……
ドキッ
ドキッ
ナオくん…おちんちんもっと
気持ち良くしてほしい…？
うん…
じゃあ　ベッドに
寝て…

あッ♡
あッ♡
ちゅくっ
ちゅくっ
ちゅくっ
ちゅくっ
あッあッ♡
亜子姉ちゃ…ッ♡
ギュッ
出ちゃうッ♡
おしっこ
出ちゃうッ♡
大丈夫だよ…お姉ちゃんが
全部受け止めてあげる…
ビクッ
ビクッ
ちゅくっ
ちゅくっ
ちゅくっ
ちゅくっ

チュクッ
チュクッ
チュクッ
チュクッ
チュクッ
あッあッ
あッあッ♡♡
ビクッ
ビクッ
あううッ♡
ぞくぞくっ
ブルルッ
ビュルルッ!!
ビュッッ!!


ドクッ
ドクッ
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ピクッ
トロ…
ピクッ
ピクッ
ドクッ
ドクッ
ん…
ぴちゃ…
ハァ…
ハァ…
びくっ
びくっ


ナオくんのおちんちん…
ハァ、
キレイにしなくちゃ…
ハァ、
ハァ、
ビクンッ
チュプッ
ん…
はうッ！
チュポッ
チュポッ
チュポッ
あッあッ亜子姉ちゃんッ♡
なに…これ…キモチイッ♡

あうぅッ♡
ビクンッ
ビクンッ
ドピュッ
ドピュッ

ポンッ
プルンッ

ちゅうっ
グッグッ…ッ

ピュッ
ピュルッ
ぐっぐっ

ニコ…
爺ちゃん
婆ちゃん
久しぶり！
おお～
遠い所から
よう来たの
取れたての
スイカがあるよ

おいしかったかい？
亜子にも一個持って行ってあげて
亜子さん元気にしてるかな…
この辺全然変わってないや
あれ？
亜子さん？
なあ考え直してくれよ
しつこいわね！あんたとはもう別れるって言ったでしょ！

あんたの女遊びにはもう
うんざりなのよ！
そんな冷たいこと
言わねえでさ
なあ
頼むよ
ぐっ
痛ッ
ちょっと！
放してよ！
おごッ！
バカン
え!?
ナオくん!?
亜子さんに
触るな
この野郎！
ぐッ
なんだクソガキッ！

きゃあッ！
食い物を粗末にするんじゃねえっ！
ドカッ
ズシャッ
ぐッ
キッ
うう…ッ
バシッ

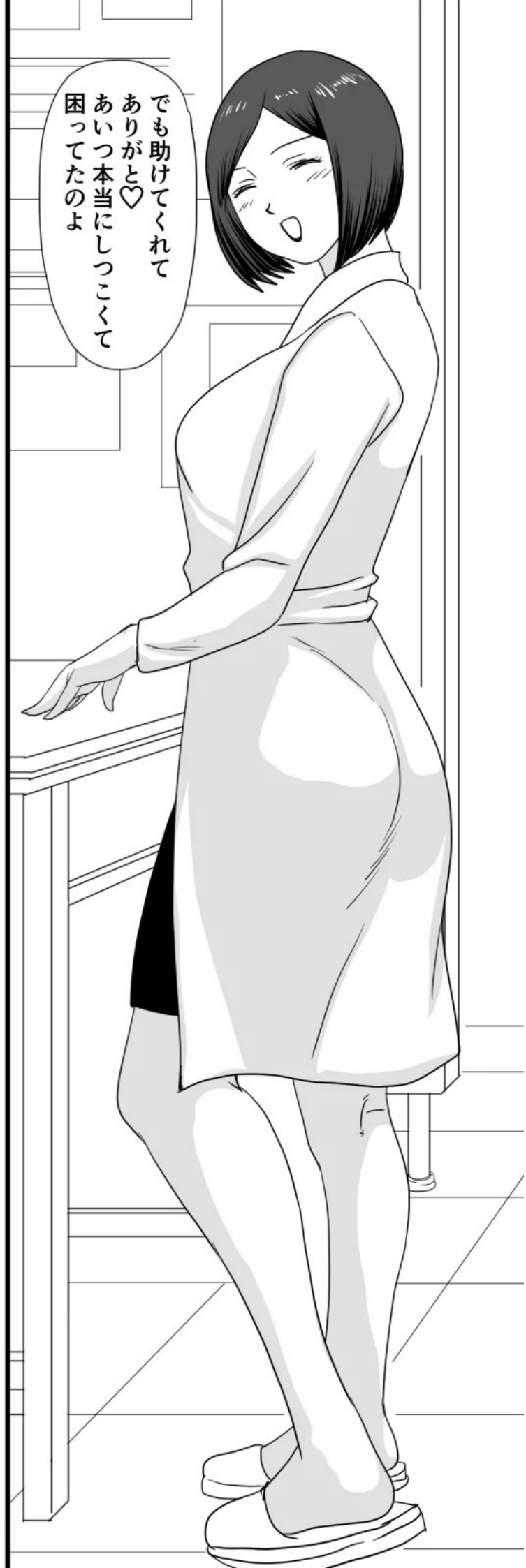
この子を傷つけるのは絶対に許さないから！
カッコ悪い…守ろうと思ってたのに逆に守られるなんて…
帰ってよ！警察呼ぶわよ！
なんの騒ぎだ？
チッ
俺は絶対に別れないからな！

ミーン
ミーン
ミーン
ほら
じっとして
つッ！
本当にびっくりしたわよ
いきなり現れるんだもの
何年ぶり？
6年ぶりくらい？

亜子さん
なんであんな奴と
付き合ってたの？
ん～？

大人には
色々あるのよ
カチンッ

え？
ぐいっ


でも助けてくれて
ありがと♡
あいつ本当にしつこくて
困ってたのよ

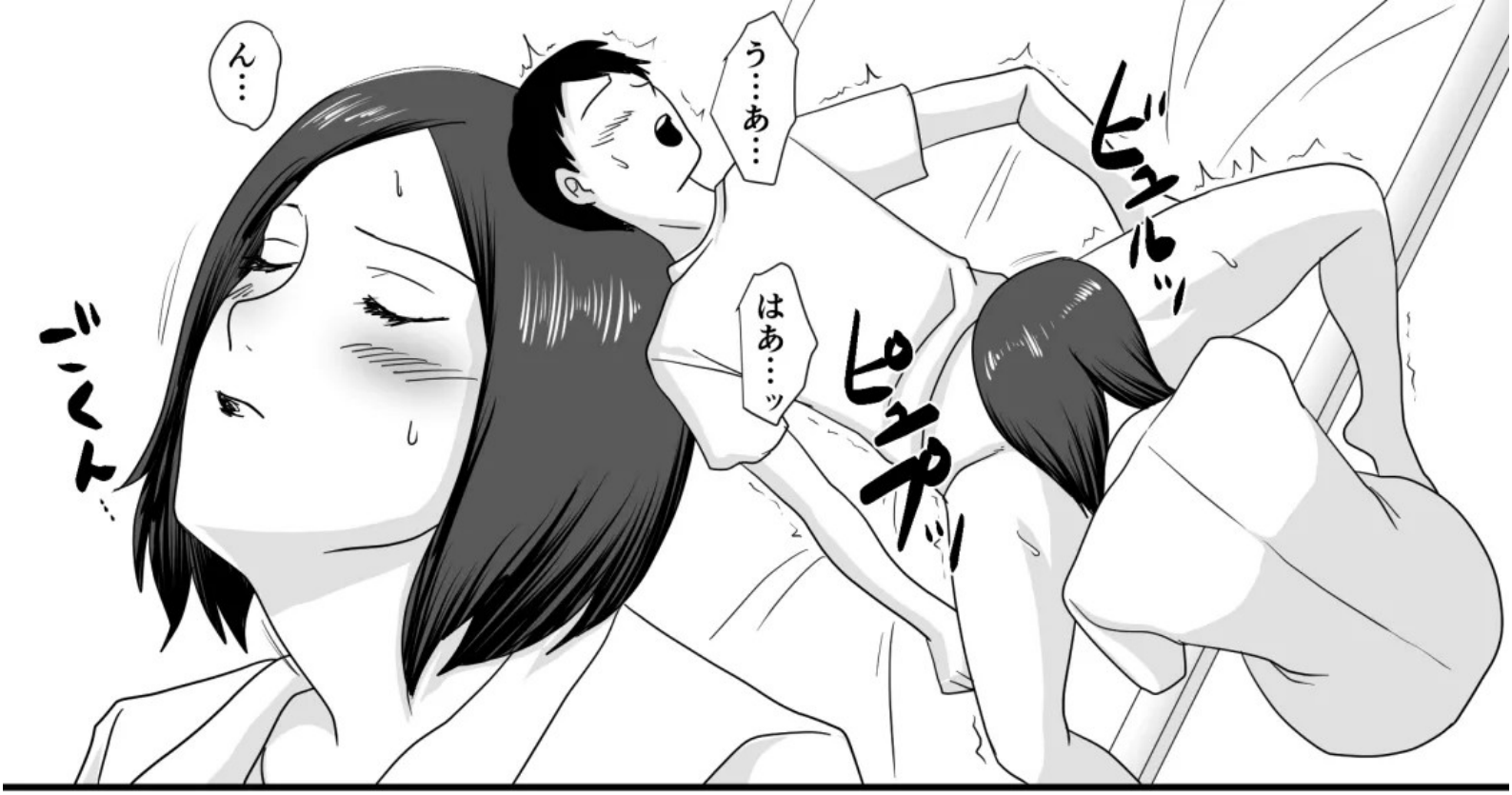
きゃあッ！
ドサッ
ちょっと！
どうしちゃったのよ!?
ナオくん!?
ギシッ
亜子さん…
俺のことまだ
ガキだと思ってるだろ…
もう亜子さんに
悪戯された時の
俺じゃないからな!!
!!
ナオくん
あの時のこと
覚えてたの…？

忘れるわけないだろ…ッ
ブチュッ
シンッ!?
ミルンッ
んふうッ!!
バタッ!
んうッ!!
んんんッ!!
グッ!
グッ!
んうッ!
んッ!
ふッ!
クチュッ
んッ
クチュッ
んッ

う…
ん…ッ
ん…
うん…
はあ…ッ
俺にあんなことした責任取ってもらうからね…
ズルッ
!!!
あ…亜子さん？
わッ!!
んッ!!

チュルンッ
チュプッ
チュポッ
チュポッ
チュポッ
パプッブプッ
でくっ
でくっ
あッあッ♡
亜子さ…ッ♡
あッ♡
ん…
ん…
チュッポッ
チュッポッ
う…くッ!!
あうッ♡
チュポッ
チュポッ

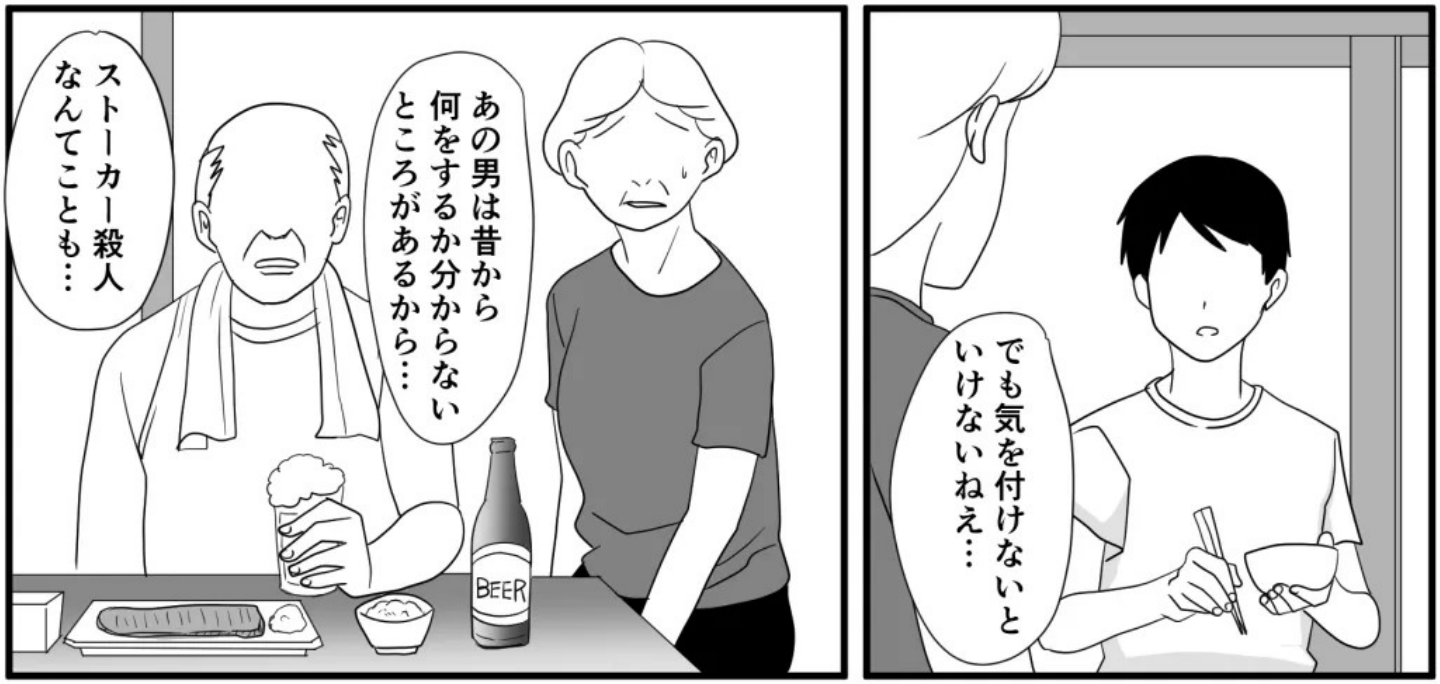
チュポッ
ん…
チュポッ
ん…
チュポッ
ん…
クポッ
チュポッ
うあッ♡
チュポッ
はッ♡
あッあッ♡
チュポッ
亜子さ…ッ♡
チュポッ
チュポッ
んッ
チュポッ
んッ
チュポッ
んッ
チュポッ
あッ♡
イク…ッ♡
クポッ
ん…ッ
ビュルルッ
ビュルルッ
う…ッ♡
ビクッ
ビクッ
うッ♡


ん…
う…あ…
はあ…ッ
ビュルッ
ピュッ
ごくん…

……
落ち着いた…？
ハァ
ハァ
ハァ

今日はもう
帰りなさい…

リーリー
ボー
ナオ
ご飯できたぞ
聞いたぞ？
亜子の元カレを
追い返したんだって？
え…
うん…
しかし本当に
しつこい奴だな
あいつは


でも気を付けないといけないねえ…
あの男は昔から何をするか分からないところがあるから…
ストーカー殺人なんてことも…
BEER

やだお父さん！怖いこと言わないでよ！
ピクッ

亜子さん…一人で大丈夫だろうか…
ちょっと電話してみたら？

あら？出ないわね
え…？

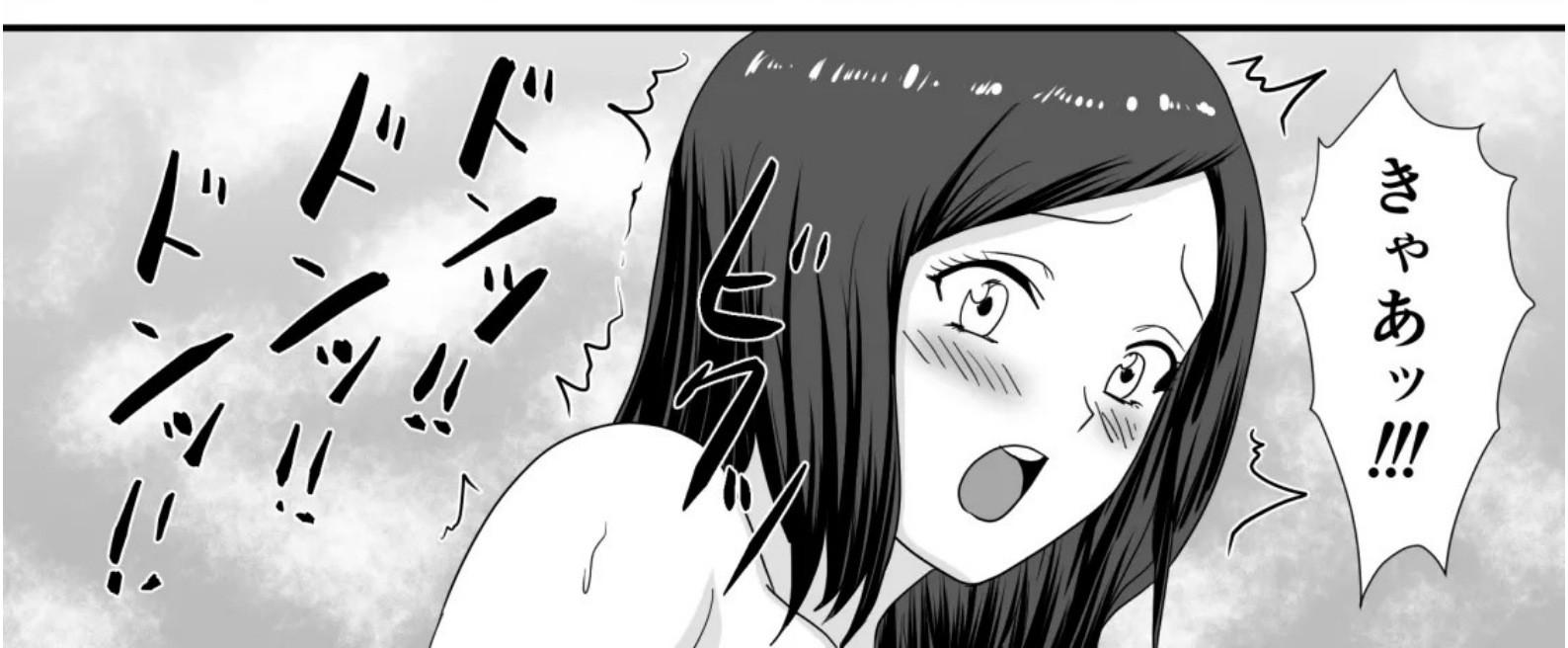
お…俺ちょっと行ってくる！

ンヤアアア…
ナオくん…
久しぶりに会えて嬉しかったけど
私が悪戯したせいで
あんなに思い詰めてたなんて…

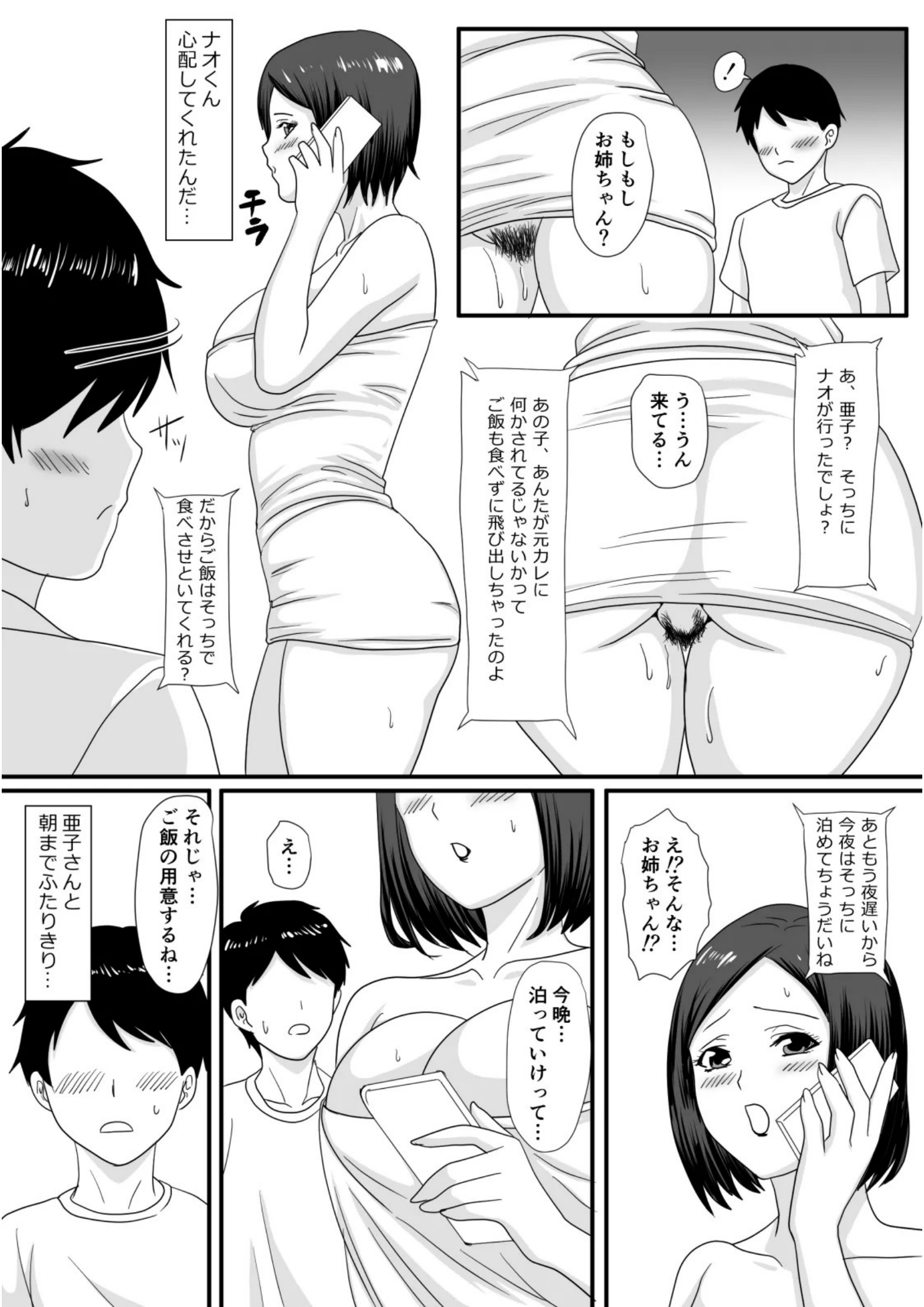
もしフェラチオだけじゃ
収まってくれなくて
強引に挿入されてたら…
私…どうなってたんだろう…
……
ドキ
ドキ

チャプッ
はッ
ハッ
チャプッ
チャプッ
チャプッ
あッ
チャプッ
はッ
チャプッ
チャプッ
チャッ
あッ♡
チャッ
あッ♡
あッ♡
くぐ
チャッ
あッ♡
チャッ
チャッ
チャッ

はッ♡
ビクッ
ビクッ
はッ♡
チャッ
あッ♡
イキそ…ッ♡
チャッ
ヒクヒク
チャッ
ズクンズクッ
あッアッ
イクッ♡
チャッ
チャッ


きゃあッ!!!
ヒクッ
ドンッ!!
ドンッ!!
ドンッ!!

亜子さんッ!!
ドンッ
ドンッ
亜子さんッ!!
ドンッ
ドンッ
え…?
ナオくん?
ガラッ
あ…ッ
♪
♪
♪
よかった…
電話に出ないから
何かあったのかと思ったよ…
あ…ごめんなさい…
お風呂…入ってたから…
きっと
母さんだよ
♪
♪
♪


ナオくん
心配してくれたんだ…
チラ
ナデッ
だからご飯はそっちで
食べさせといてくれる？
あの子、あんたが元カレに
何かされてるじゃないかって
ご飯も食べずに飛び出しちゃったのよ
う…うん
来てる…
あ、亜子？　そっちに
ナオが行ったでしょ？
！
もしもし
お姉ちゃん？
あともう夜遅いから
今夜はそっちに
泊めてちょうだいね
え!?そんな…
お姉ちゃん!?
え…
今晩…
泊っていけって…
それじゃ…
ご飯の用意するね…
亜子さんと
朝までふたりきり…

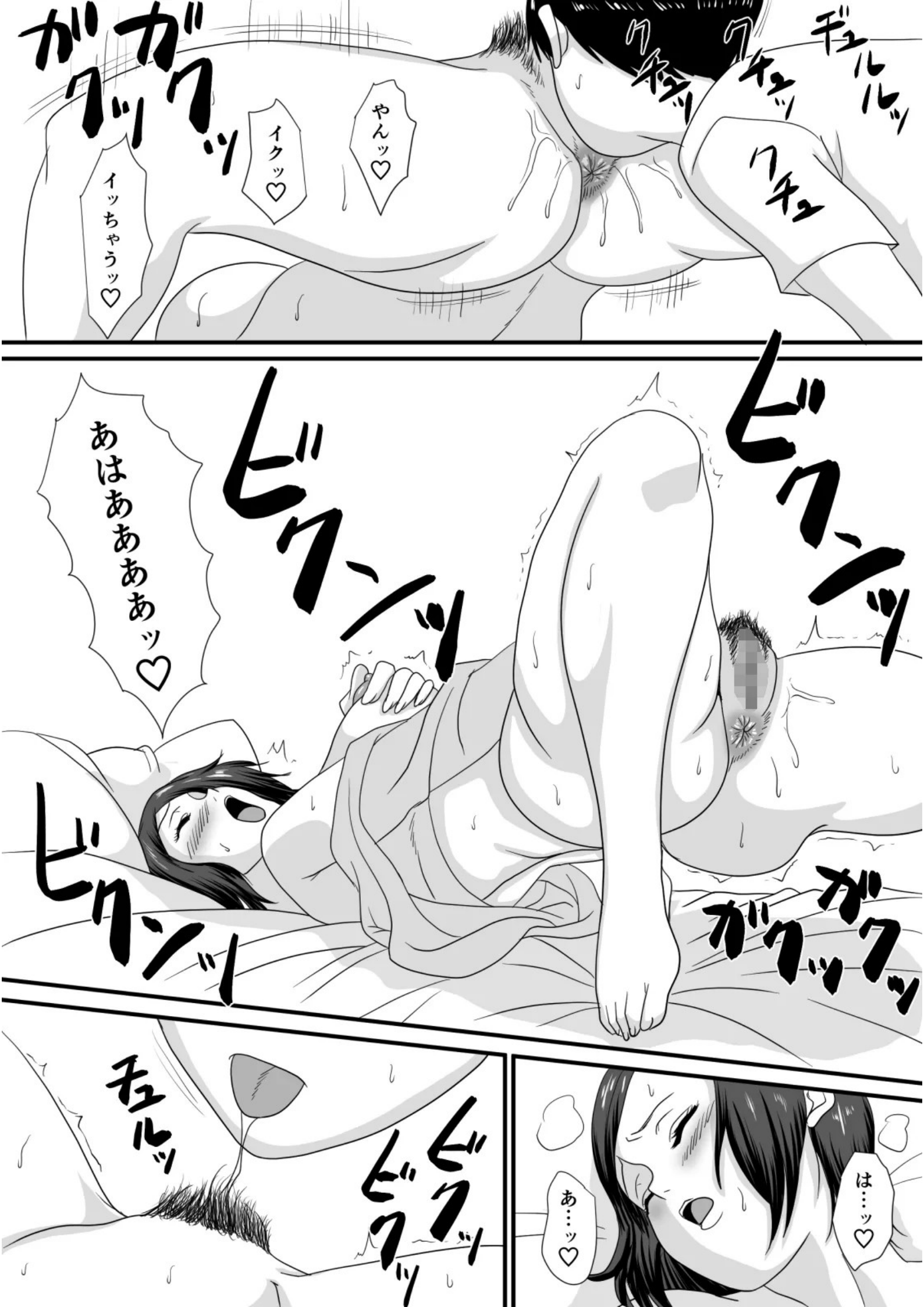
ハァ
ハァ
ハァ
んんッ!!
ん…ッ
ん…ッ
クチュ
クチュ
クチュ
はあッ！
あッダメッ!!
ナオくんッ!!
ムニュ

スルッ
クチュ
どうしてもって言うならまたお口でしてあげるからッ!!
ハァ
ハァ
ハァ
ハァ
あッ♡
ビクンッ
ダメッ♡
そこはダメッ♡
あッ♡あッ♡
クチュ
クチュ
クチュ
ビクッ
ビクッ

亜子さんのここ…
すごく濡れてる…
クチュ
クチュ
クチュ
クチュ
ねえ…
亜子さん…
いいでしょ？
ダメ…ッ
私たちはそんな関係に
なっちゃいけないのよッ!?
グイッ
…ッ!!
ああッ!!
ダメだってばぁッ!!
カバッ
きゃあッ
これが…
亜子さんの…
いやあッ!!
見ないでッ!!

んうッ♡
ビクンッ
ピチャッ
あ…あッ♡
ダメ…♡
そんなトコ
舐めちゃ…あッ♡
ピチャッ
ピチャッ
ピチャッ
ピチャッ
やッあッ♡
んううッ♡
ビクンッ
ビクンッ
ズッ！
ズルルルッ！

あ…ッ♡
あッ♡
だめ…ッ
気持い…ッ♡
ピチャッ
ピチャッ
ピチャッ
ビクッ
ビクッ
あ…んッ♡
あッ♡
ナオくん…♡
こんなのどこで覚え…アッ♡
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ピチャッ
ギュルッ
ギュルッ
クチュッ
クチュッ
やッあッ♡
そこ…ッ
吸っちゃダメッ♡
ビクッ
ギュルルッ
クチュッ
クチュッ
ギュルッ
あ…私…
もう…イッ♡


ガクッガクッ
やんッ♡
イクッ♡
イッちゃうッ♡
クチュッ
クチュッ
クチュ
ギュルルッ
ビクンッ
あはあああああッ♡
ビクンッ
ビクンッ
ガクッガクッ
は…ッ♡
あ…ッ♡
チュルッ
ビクッビクッ

待って…
ナオくん…
今日あたり
排卵日だから
生は絶対ダメ…
ハァ

ハァ
ビンッ
ハァ
ハァ
ハァ

亜子さん…ッ
挿入れるよ…!?
いいよね!?
ずッ

そこの鏡台の
一番下の棚に
ゴムあるから…
ハァ
それつけて…

落ち着いて…
もう少し下…
ここ…？
そう…
そのまま
ゆっくり腰を前に
突き出して…
ハァ
ハァ
ギシッ
ハァ
ハァ
ついに亜子さんと
セックスできる…ッ
ハァ
ハァ
ぐッ
にゅ…
ぐんっ！

はわ…ッ!!
ゾクゾクゾクゾク
ビクンッ
は…あッ♡
ギシッ

ビクッ
ビクッ
あ…亜子さんの膣内…すごくあったかい…ッ♡
童貞卒業おめでとう♡
好きな時にイッていいからね?♡

亜子さん♡
ん…♡
ん…ッ♡ふ…♡
チュッ
チュッ
ん…♡
ん…ッ♡
ふッ♡
クチュッ
クチュッ
クチュッ
ん…ッ♡
ん…ッ♡
ん…ッ♡
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ

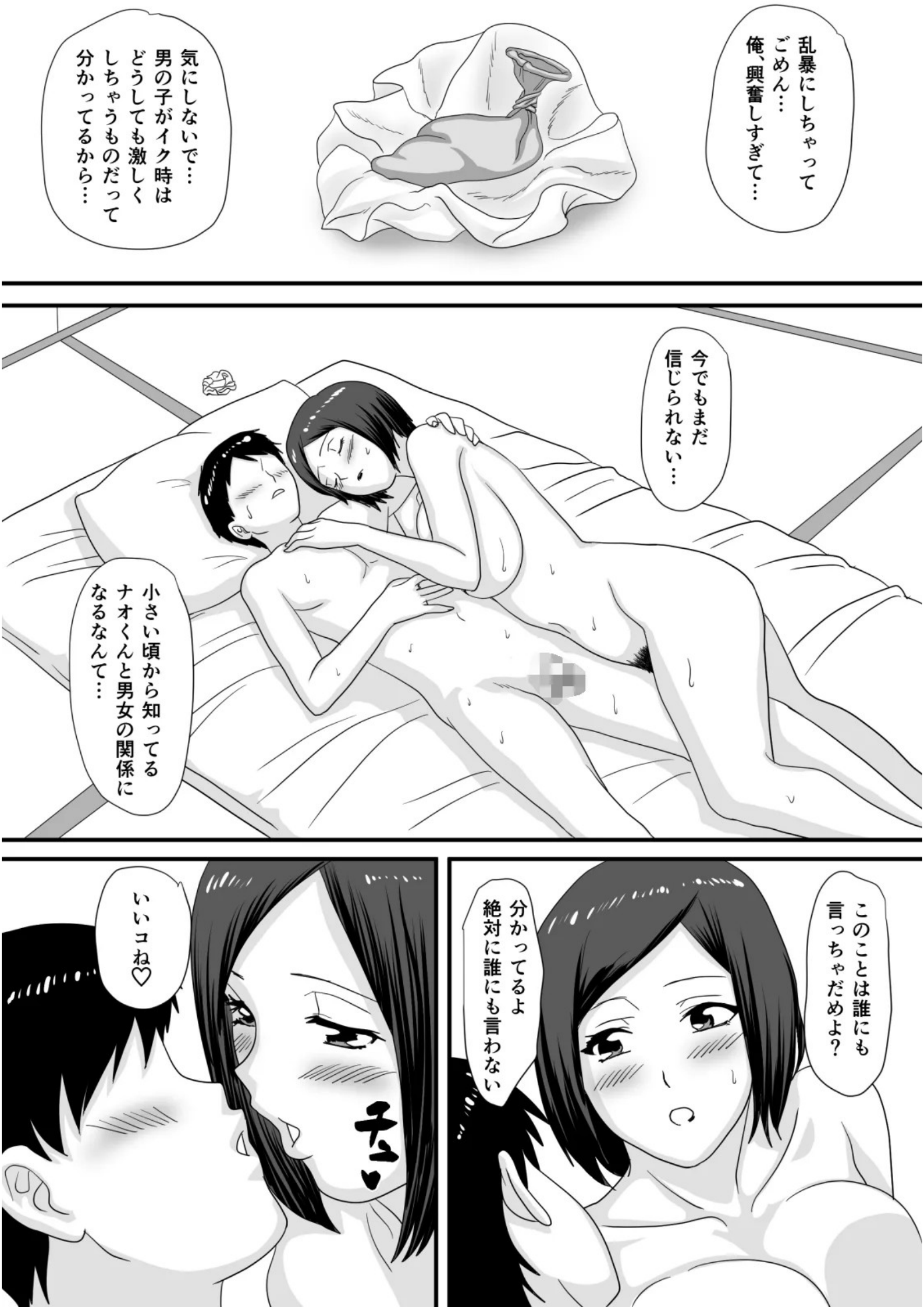
ハッ♡
ハッ♡
ヌプッ
ヒクヒク
ヌプッ
あッ♡
クリッ
あんッ♡
あッ♡
ナオくん…ホントに初めてのセックスなの？
あッ♡
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ
あッ♡
ズプッ
あッ♡
ヌプッ
すごくステキ…♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ

すごい…
これが女の人の…
あッ♡
ズプッ
あんッ♡
なんて気持ちいい…
ヌプッ
ズプッ
ヌプッ
ゴム越しでも
温かくて
締め付けてくる…ッ
パチュッ
あッ♡
パチュッ
あッ♡
パチュッ
あッ♡
あッ♡
パチュッ
あッあッ♡
それにこの征服感…ッ
パチュッ
パチュッ
あんあッ♡
パチュッ
腰を打ち付けて
声を上げさせるのが
こんなにも気分いいなんて…
あッ♡

これで亜子さんは俺の女だ…ッ!!
バシッ
バシッ
バシッ
バシッ
バシッ
あッや…ッ!
ナオくん…ッ!!
あ…おッお願い…
もう少し優しく…
ガクッ
ガクッ
ガクッ
ガクッ
プルッ
プルッ

亜子さんの哀願も耳に入らず
俺は目の前の女のカラダで
イクことしか考えられなかった…
ズプッ
ズプッ
ズプッ
はッ
はッ
あッ
あッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
イク…ッ
イクよッ！
亜子さん…
イクッ!!
ギュッ

ビュルッ
んうッ
うッ♡
うッ♡
ビュルッ
ビクンッ
ビクンッ
はッ♡
ビュルッ
ピュッ
はッ♡
ビュッ
あッ♡
はあ…ッ♡
あ…ッ♡
ビクッビクッビクッ


乱暴にしちゃってごめん…俺、興奮しすぎて…
気にしないで…男の子がイク時はどうしても激しくしちゃうものだって分かってるから…
今でもまだ信じられない…
小さい頃から知ってるナオくんと男女の関係になるなんて…
このことは誰にも言っちゃだめよ？
分かってるよ絶対に誰にも言わない
チュ♥
いいコね♡

じっとしてて…
昔みたいにお口で
綺麗にしてあげる♡
ん…♡
ペろペろ
あッ♡
亜子さんッ♡
ツッ
ヌメ…
パクッ
う…くッ♡
うッ♡
クポ
クポ

若いのね…♡
もうこんなに硬くして…♡
シゴシゴ
シゴシゴ
あッ♡
グッグッ
もう一回…する？
コクコク
じゃあ…挿入れるね？
くいっ
キュッ

ニュプッ
ハアッ♡
硬ぁい…♡
ぶるるっ
ビクッ
ビクッ
う…あッ♡

あんっ♡
…
あっ♡
あっ♡
あっ♡

ズチッ
ズチッ
素敵よ？
ナオくん♡

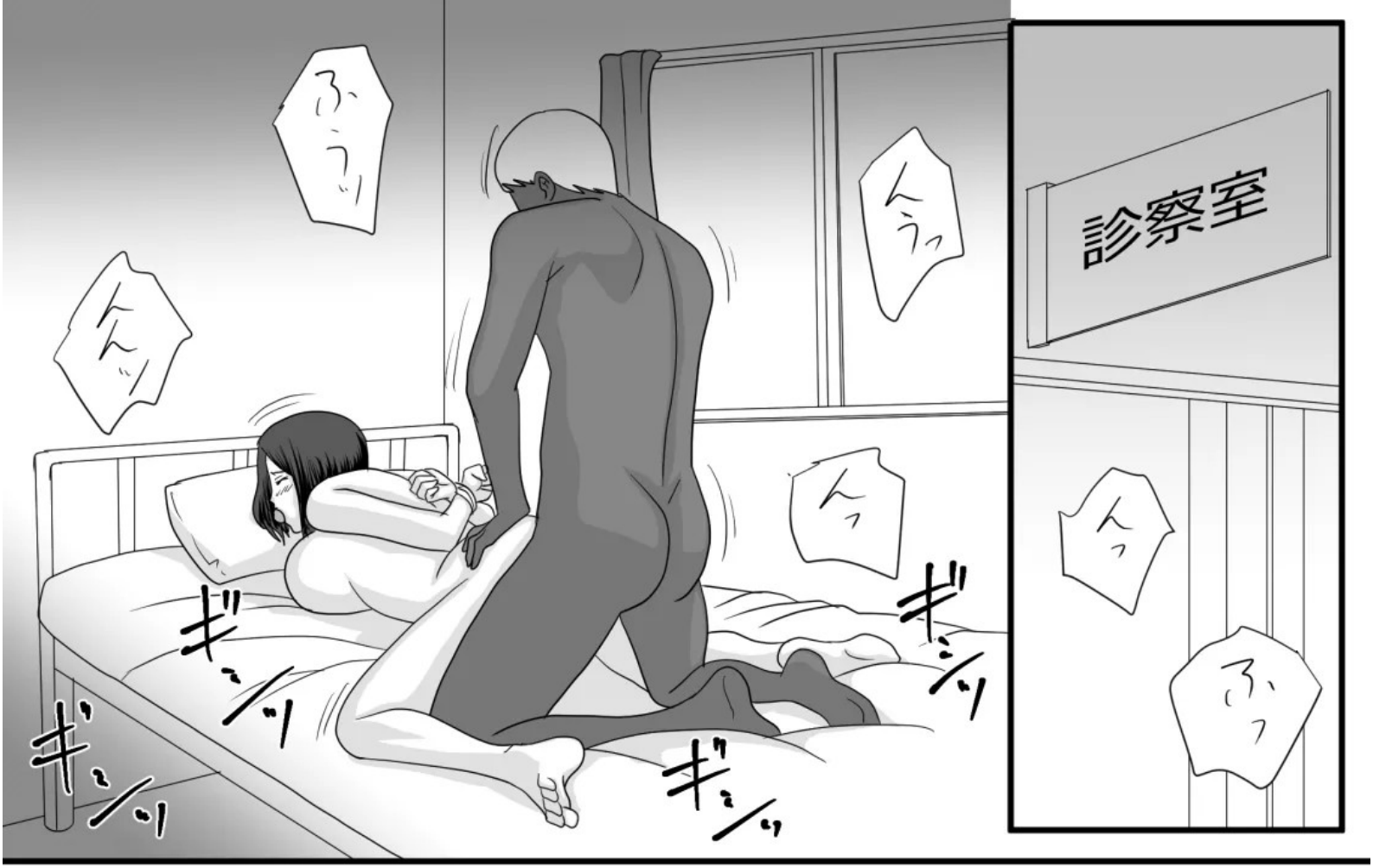
ザアアアアッ
スースー
ナオくん寝ちゃった…？
初体験頑張ったものね…
おやすみなさい♡
ザアアアアッ
いつの間にか雨が降り出してる…
キンゆっ
ちゃんと戸締りしたかしら…
ガラッ
キンキン

ザアアアッ
バサ
バサ
え…？
ゾクッ
よう…
んんッ!!
聞いたぞ？
あのガキ
お前の甥なんだってな
!!
まさか自分の甥と
セックスに耽るとはねえ…
ガバッ
スリ…

スルッ
グチュ
んんッ!!
ビクンッ
ヌレヌレじゃねえか…
そんなに甥とのセックスが
よかったか?
んッ!
グチュッ
んッ!
んんうッ!!
グチュッ
俺が侵入したことにも
気付かないくらい
没頭してたもんなあ…
グチュッ
これだけ濡れてりゃ
前戯はいらねえな…
ねと…
ンンッ!!
グイッ
ギュッ

ギニッ
ズサッ
グイッ
お前が誰のモノか教えてやる…
モミッ
んんッ!?
ビクンッ

ニュルーッ
ムクッ
ゴロゴロゴロッ
スー
ガアアアアッ


診察室
ふっ
ん
ん
ふっ
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ

こうしてお前のケツ穴を拝みながら突っ込んでると昔を思い出すな…
んッ！
んッ！
んうッ!!
んんッ!!
ギッ
ギッ
ギッ
ヌプッ
ヌプッ
ヌプッ

俺が処女膜
破ってやった時も
バックからだったよな？
痛…ッあッ!!
痛ぁいッ!!
ズキッ
ズキッ
ギッ
ズキッ
ズキッ

痛あッ!!
やッあッ!!
最初は痛い痛いと
泣き喚くだけだった小娘が…
ズリッ
ズリッ
ブルブルッ

ヒクヒク
今じゃ気持ち良さげに肛門ヒクつかせてんだからな…
俺のチンポ思い出したかコラッ
ンンッ!!
ビクン
ビクン
キュッ
カァ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ん
ん
ん
ん
最低な男だとは分かってたけどここまでするなんて…

悪い夢ならどれだけ良かっただろう…
しかし膣内で摩擦を続けるペニスの熱さが…これがまぎれもない現実だと痛感させる…

今はただこの恥辱が終わるのを耐えて待つしか…

ズリュ
ズリュ
ん
ズリュ
ズリュ
ん
ん
ガバッ
グイッ
ん
あ…
たぷっ
ん♡
たぷっ
うん♡
イヤ…
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ん♡
うん♡

気持ちいい…
どうしよう…
ん♡
あ♡
ん♡
ズチッ
ズチッ
ズチッ
ズチッ
トンッ
トンッ
トンッ
ズリュッ

妨げるものなどない
密着した粘膜の温もりと
カラダの芯を揺する律動が
甘い痺れとなって
全身を駆け巡り…
心がこの卑劣な行為を
許し始める…
ん♡
ビクッ
んん♡
ビクッ
ん♡
ビクンッ
ん…♡
ビクンッ

こんなこと絶対に
許しちゃいけないのに…
んん♡
ズプッ
ヌプッ
ガクッ
ヌブッ
ヌブッ
ふぅっ♡
ガクッ
んっ♡

チャッ
チャッ
チャッ
チャッ
チャッ

んっ♡
ふぅん♡

逃げ場のない快感が体を支配し、
もはや抗うことさえ無意味だと
悟らされる…
ふっ♡
んっ♡
んんっ♡
ブリュッ
ブリュッ
ブリュッ
ブリュッ

ソバハッ
ビクンッ
んん――ッ♡
ギンッ
ヘラッ♡
ギンッ
ヘッ♡
ギンッ
ズリュッ
そういえば上の方擦られるの好きだったよな？
気持いいかオラッ
ズリュッ
ズリュッ
ズリュッ
ズリュッ
んッんッんッ♡
んん――ッ♡

無理やり突っ込まれて
被害者ぶってるが
しっかり感じてるな…
本当はあのガキの粗チンじゃ
満足できなかったんだろ？
俺が散々抱いてイキ癖を
つけてやった完全ナマ派の
スケベマンコだもんな？
パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
ん♡
んんッ♡
んっ♡
ふっ♡

ゴム姦じゃ
イケなかったろ？
お前のカラダはもう
俺のじゃないと
満足できねえんだよ…
パチュッ
パチュッ
パチュッ
パチュッ
んっ♡
んッ♡

悔しい…
女なら仕方ないことだと
分かっていてもこんなにも
乱れてしまうなんて…
ンンッ♡
ぐりゅんっ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ンっ♡
ンっ♡
無遠慮に膣内を
食い荒らすような
腰の動きにも
悦びの声を
上げてしまう…
ぐりっ
ぐりっ
ぐりっ
これだろ？
これがイイんだろ？
ンぐっ♡
ンっ♡
ンッんッ♡
もう忘れていたと思ってたのに
私のカラダはこの男の乱暴な
セックスを覚えていた…

ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ぐいっ
ズプッ
ヌプッ
ぐしゅっ
ぐしゅっ

ぐじゅっ
ぐじゅっ
ぐしゃっ
んっ♡
んっ♡
んっ♡
ふぅんッ♡
バスッ
バスッ
バスッ
ナオくん…
ごめんなさい…
がくっ
うんっ♡
私…もう…
んっ♡

ニーッ♡
ギュッ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ

ビクンッ
ギュッ
ん～っ♡
ビクンッ
ギュッ
フッ♡
ブルルッ
キュンッ
キュンッ
キュンッ

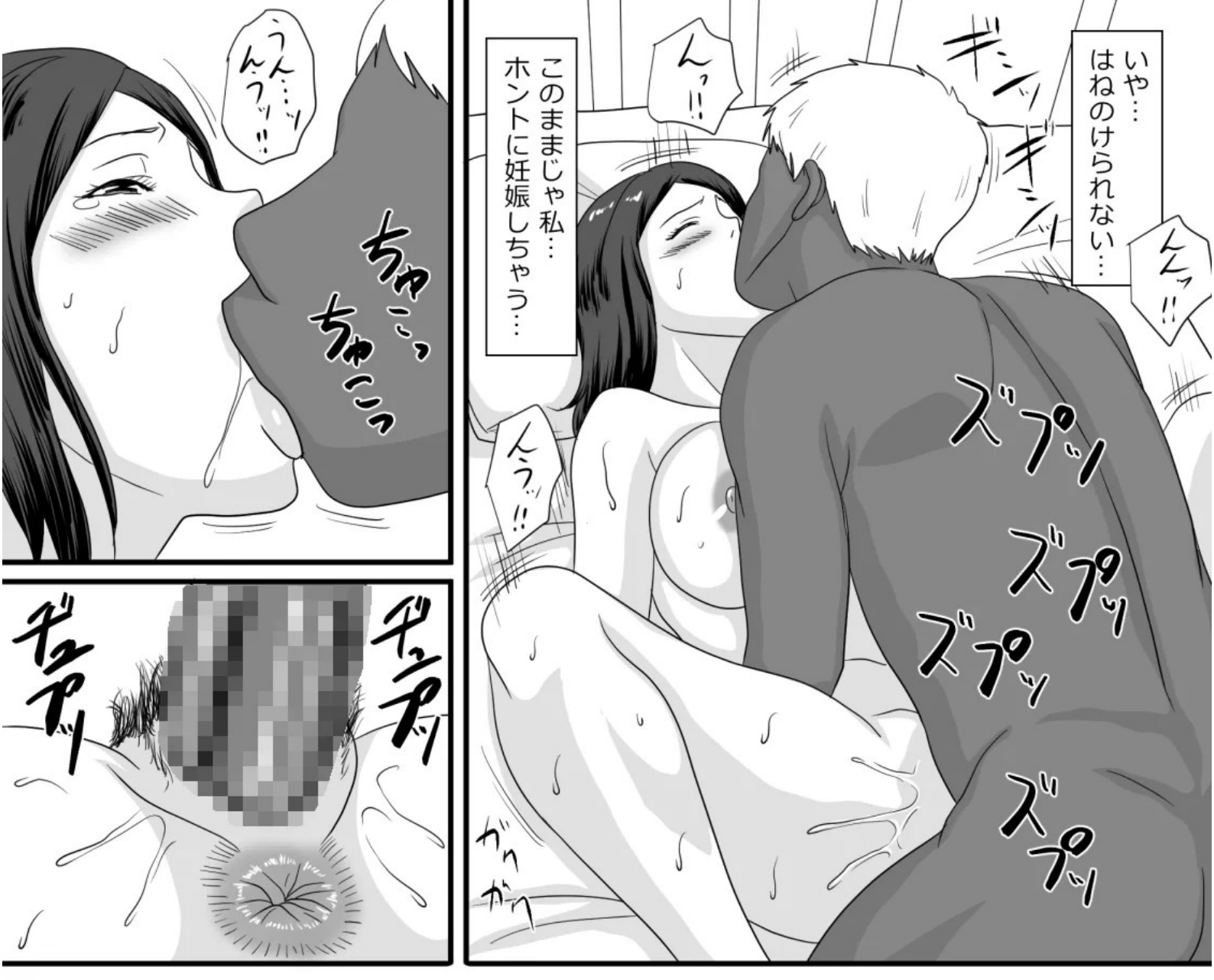
ぐちゅんっ
ん…っ
ニュプッ
スーッ
ん…っ♡
ぐじゅっ
ぐじゅっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ
ぐちゃっ
よおし…
完全にトロけたな

!!
二度と他の男に股開く気が起きねえようにしっかり種付けしてやる…
タプッタプッ
グイッ
ズリュッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズリュッ
ん…っ!!
ガクッ
ガクッ
ん…んっ
いや…ッ
妊娠させられるッ!!
こんな男に…ッ!!

だめ…また大きいのがきそう…
このままでは妊娠してしまうと
分かっているのに抑え切れない
衝動に理性が遠のいていく…
大きくこじ開けて絶頂へと誘う
逞しい挿入を拒み切れない…
ズッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
グッ
グッ
グッ
グッ
ガクッ
ガクッ
ギュッ
タプッ
タプッ
イク…イク…ッ
んっ♡
んっ♡
んっ♡
イク…ッ♡
んーッ♡
んーッ♡

ビクルルッ
ビクルルッ
ビクルルッ
ビクンッ
ビクンッ
ンンーッ♥
イックウッ♡
ドビュッ
ドビュッ
ドビュッ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
ビクンッ
クイッ
クイッ

結果を恐れながらも
その瞬間の快楽に逆らえず…
絶頂を迎えた悦びに膣内射精の
熱を感じながら腰をしゃくりあげる…


いや…
はねのけられない…
ギンッギンッ
んっ!!
このままじゃ私…
ホントに妊娠しちゃう…
んっ!!
んうッ!!
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
うん…ッ
んうッ!!
ちゅこっ
ちゅこっ
ギュアッ
ギュアッ

助けて…
ナオくん…
ビクッ
ビクッ
ブチュッ
ブチュッ
ブチュッ
ブチュッ
あおおお…ッ!!

なんだ…？
今の声…
亜子さん…？
ビクッ
診察室の方から聞こえる…
ん…♡
はあッ♡
声がする方へ近づくにつれ、
それが何の声なのか徐々に分かってくる…
この声ってアレの時のじゃないか…？
ビクッ
ビクッ
あッ♡
んっ♡
暗闇の中に浮かぶ
診察室のドアの向こう…
そこで起こっていることを
見てしまえばきっと後悔する…
あッ♡
ビクッ
ビクッ
くはあッ♡
ビクッ
あッあッ♡
それでも確かめずには
いられなかった…
あん♡
あッあッ♡

ピカッ
ゴロゴロゴロ
え…？
なんだ？
あれ…
グイッ
ユサッ
ユサッ

そこで見たのは
トロけた表情で
あの男にしがみつき、
快楽に溺れる
亜子さんの姿だった…
ユサッ
ユサッ
ユサッ
ユサッ
ユサッ
あぁ…♡
あんあ…♡
ひあっ♡
はぁんっ♡
ギシッ
グチュッ
グチュッ
グチュッ
グチュッ

あッ♡
あッ♡
ブチュッ
わたし…
また…ッ♡
またイキそうッ♡
ブチュッ
ブチュッ
ブチュッ
あッおッ♡
ブチュッ
ブチュッ
やんッ♡
クるッ♡
キちゃうッ♡
大きいの
キちゃうッ♡
ブチュッ
ブチュッ
ブチュッ

あはあああああああッ♡
ビクーンッ
ビクンッ
ビクーンッ
ビクンッ
ビクーンッ
ビクンッ

ぐじゅ
ビクッビクッ
ギシッ
デカイッ!!
あんなのが
亜子さんの膣内に…ッ
ドア一枚を隔てた先で
愛する女性が犯されてるのに
嫌がるどころかアイツの上に
跨り、揺さぶられるままに
なっている亜子さんの恍惚とした
表情が目に入る…
ギッ
ギシッ
ギシッ
ギシッ
ん♡
ん♡
うん♡
それを見た瞬間、
部屋に踏み込んで
やめさせようとする
気持ちが揺らぎ、
躊躇してしまった…

初めて目の当たりにする
大人の本気セックス…
その激しさや下品さはセックスというより
本能だけの動物の交尾そのものだった…

いつも優しくて可愛らしかった
亜子さんを
あそこまで肉欲に溺れさせる…
屈辱と敗北感を覚えながらも
俺の股間は痛いほど硬くなっていた…
キンッ
キンッ
ギシッ
ん…っ♡
くちゃっ
くちゃっ
ゴロン
ぐじゅっ
くちゃっ
くちゃっ

ひあっ♡
あっ♡やっ♡
あうんッ♡
あッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
男は亜子さんのオマンコに巨根を深々と突き立てて誰が主人なのかをカラダの芯まで教え込んでいく…

こうんっ♡
こうっ♡
んうっ♡
ギンッ
ギンッ
ギンッ
ギンッ

亜子さんが精液を飲むのもお掃除フェラをしてくれるのもあの男にそう仕込まれてたからなんだ…
ハァ
ハァ
ハァ
シュッ
シュッ
シュッ
シュッ

あれが強い男に抱かれた時に見せる女の本当の顔…
ん♡
ぅん♡
ふぅん♡
ギッ
ギッ
ギッ
ギッ
ガッ
ガッ
ん？
ギシッ
ぷっ
ぷっ
ぷっ
ちゃるっ
あぁ♡
ギシッ
あ♡
あっ♡
あっ♡
ハァ
ハァ
ハァ
しこ
しこ
しこ
ヒヤッ

おい…
ガキに覗かれてるぞ…
え…？
!!
ハッ
キッ
ガクッ
ガクッ
ズプッ
ヌプッ
なんだそりゃ？
見られてると分かった途端に
清楚ぶりやがって…
んうッ！
んッ！
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ

これならどうだ？
ガバッ
あッ!!
いやッ!!
こんな恰好…ッ!!
あいつ…俺に見せつけるように…ッ
ハァ
ハァ
ハァ
あッあッあッ！
ズプッ
やめ…ッ！
あ…ッ♡
はッ♡
あッ♡
プルッ

あッ♡
は…ッ♡
あ…いッ♡
あんあッ♡

屈辱的な格好で乱暴な挿入に晒されているにもかかわらず亜子さんの声は艶を帯びたものに変わっていった…
あッあッ♡
はあんッ♡

ズプッ
ズプッ
あ…ッ
お…ッ！
お願い…ッ
ズプッ
ズプッ
!!
見ないで…ッ

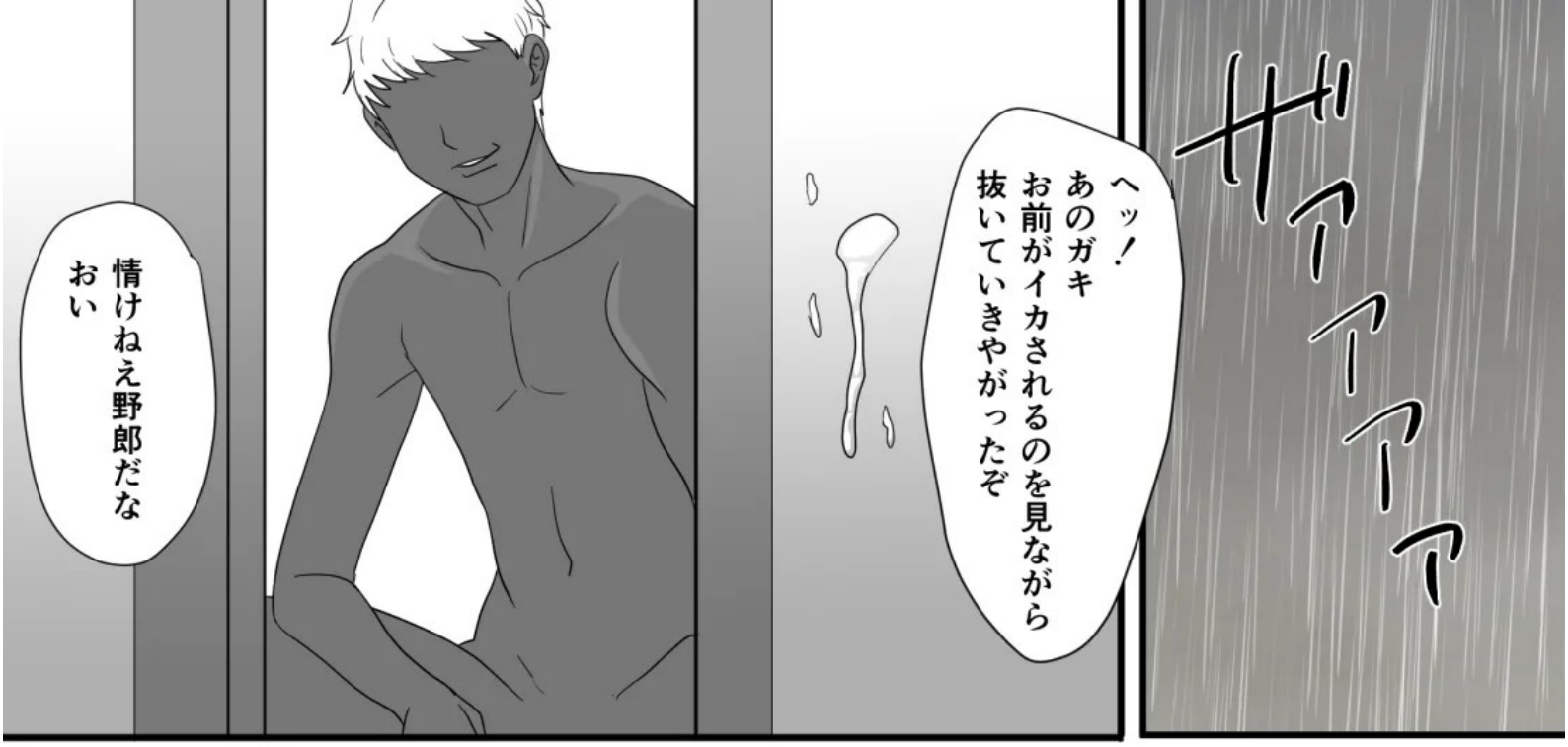
ああ――ッ♡

ビクンビクン

ビクンビクン

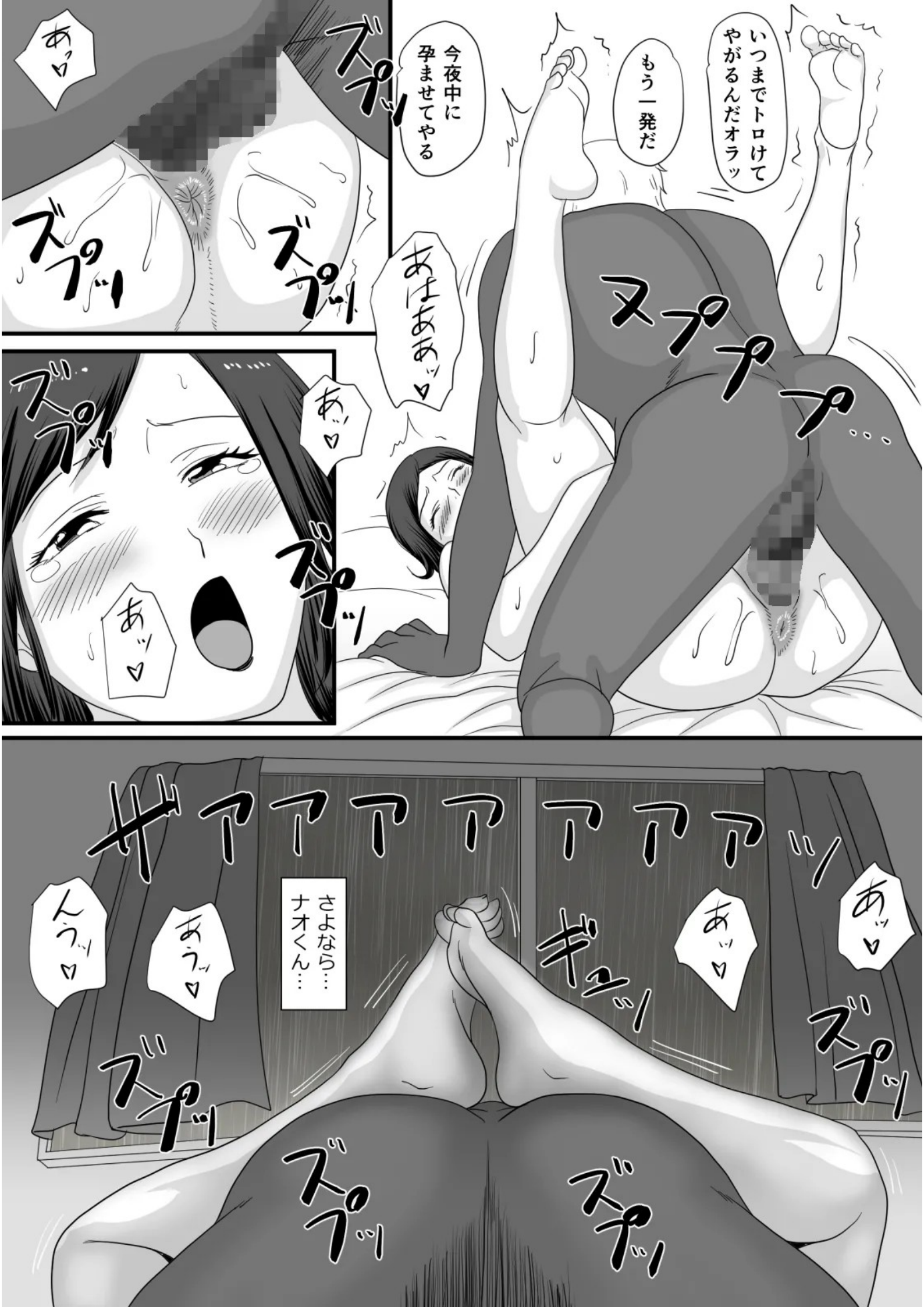
ビクンビクン

ブビビビ!!


ガアアアア
ヘッ！
あのガキ
お前がイカされるのを見ながら
抜いていきやがったぞ
情けねえ野郎だな
おい

ま、これに懲りて
二度と人の女に
手を出そうなんて
思わないだろうよ

……


いつまでトロけてやがるんだオラッ
もう一発だ
今夜中に孕ませてやる
あはあああっ♡
ヌプププ…
ズプッ
ズプッ
ズプッ
あっ♡
ズプッ
あっ♡
あっ♡
ザアアアアアアアアッ
さよなら…ナオくん…
ギッ
あっ♡
あっ♡
あうっ♡
んうっ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ

その場から逃げ出した俺は
真っ暗な嵐の中を
爺ちゃんたちの家まで
ひたすら走った…
激しい雨音に混じる
亜子さんの喘ぎ声を
耳にしながら…
そして二度と亜子さんに
会うことはなかった…
あっ♡
はっ♡
あはぁ♡
あぁ♡
おぅっ♡
ガアアアアアアアアアッ

そして今でも
雨が降るたびに思い出す…

しばらく経って
亜子さんが妊娠したと
聞かされた…
きっとあの夜に孕まされたんだ…
ガアアアアッ

みっともない恰好で悦びの声を上げながら
種を植え付けられる亜子さんの姿を…
あいっ♡
ひあぁっ♡
あっ♡
あっ♡
あひっ♡
イクッ♡
イクッ♡
イクッ♡
イクッ♡
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
ズプッ
終わり